ＳＳ課題探究Ⅰ中間発表会（ポスターセッション）の振り返り

|  |
| --- |
| 自分たちの「研究テーマ」「リサーチクエスチョン」「仮説」について、長い時間をかけて検討し、ポスターにまとめて発表を行った。そこでは、ポスターや発表といったプレゼン技法について評価シートを用いて評価を受けるとともに、研究内容について付箋を用いて質疑を受けた。ここでは、それらの貴重な意見についてまとめ、今後の活動に役立つように振り返りを行おう。 |

■評価シートの分析

中間発表会は、ポスターセッションという発表者と聴衆との距離が近い形の発表であった。発表の際は、聴衆の顔や反応を見たり、様子を感じ取ったりできただろうか。また、それに応じて相手に「伝える」ように工夫することはできただろうか。

発表後は聴衆から評価シートを受け取り、その場で振り返りを行った。ここでは、その振り返りの内容をまとめてみよう。

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 評価 |
| ４の数 | ３の数 | ２の数 | １の数 | 合計 | 平均 |
| ポスター | 研究テーマを決めた背景 |  |  |  |  |  |  |
| リサーチクエスチョン |  |  |  |  |  |  |
| 仮説、今後の方針や課題 |  |  |  |  |  |  |
| ポスター作成技術 |  |  |  |  |  |  |
| 発表 | 話し方 |  |  |  |  |  |  |
| 発表時間 |  |  |  |  |  |  |
| 質疑応答 |  |  |  |  |  |  |
| 発表内容 |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 良かった点 | 改善すべき点 |
| ポスター |  |  |
| 発表 |  |  |

■質疑（付箋）の分析

質疑応答の時間には、聴衆から付箋により様々な質疑をもらい、それに対して回答した。予め想定していた質疑もあれば、考えが及んでいなかった事項に対する質疑もあったことだろう。

今後は、今回ポスターにまとめた内容をもとに、いよいよ実験や調査を行い、実証していく。リサーチクエスチョンや仮説を振り返るのは、（今後も微修正はあるかもしれないが）ここが最後の機会である。自分たちの研究の方針を最終決定（！）するために、聴衆からの質疑をしっかり分析しよう。

|  |  |
| --- | --- |
| 聴衆からの質疑 | 分析したこと |
|  |  |

■実証方法のイメージ

リサーチクエスチョンや仮説が決まると、いよいよその実証に入っていく。実証方法は研究内容によって大きく異なるため、どういった方法が適切なのか、よく考える必要がある。

実証方法は、大きく「実験」と「調査」の２つに分けられる。自然科学系は「実験」、人文科学系は「調査」を行うことが多いが、大切なのは「何を行えば自分たちの仮説が立証できるか」である。しっかりイメージしていこう。（【重要】「課題研究メソッド」第３，４章をよく読んでおくこと）

|  |  |
| --- | --- |
| 実験 | 調査 |
| ・（一般的に）同じ条件で、または一部の条件のみを変えて、繰り返し行って比較できる・条件を整えれば、自分たちの知りたい情報を確実に得ることができる | ・アンケート調査、インタビュー調査、文献調査などがある・短い時間で多くの情報（アンケート）や詳しい情報（インタビュー、文献）が手に入る |
| ・装置や試薬、場所、環境（温度、時間など）の条件をこまかく決める必要がある・実験期間、費用、スケールなど高校生が１年間で行える限界がある | ・質問の内容や相手などをしっかり決めないと意図したことと異なった結果が出てしまう・回答の数（アンケート）や質（インタビュー、文献）が不十分だと結果に信ぴょう性がない |

■今後の予定

４月からは実験や調査が始まっていくが、進級に伴って担当の先生が替わる場合がある。来年度の最初の授業は、自分たちの課題研究を改めてしっかり整理して担当の先生に伝えることから始めよう。

具体的には、ポスターセッションをもう一度行うことをイメージするといいだろう。中間発表会で聴衆から指摘されて改善した点や、今後どのように実証していくか、なども話せると望ましい。グループ内で今後の方針を話し合い、いい形で来年度の課題研究をスタートしていこう。

|  |
| --- |
| 【来年度の最初の授業で（新しい）担当の先生に伝える内容】・研究テーマ ・テーマを決めた背景 ・調べた情報・リサーチクエスチョン ・仮説 ・今後の方針や課題・計画している実証方法（具体的であるほど良い）・訪問等を予定している大学や企業、そこでお願いしようとしていること |